

## 平成26年度第2回岩手県立前沢明峰支援学校評議員会（記録）

日時：平成27年2月2日（月）14：00～

司会：牧 副校長 記録：高橋 総務部長

### 1 開会のことば（日當 副校長）

### 2 校長あいさつ（校長 三浦 祐子）

評議員の皆様、ご多用のところありがとうございます。

本日は、どのように学校経営が行われたか、子ども達がどのような活動をしたか、我々がどのような支援をしたかご報告申し上げて、皆様方からたくさんのご助言をいただきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

### 3 概況説明（今年度の振り返り）

#### （1）経営状況について（三浦 校長）

- ・今年度学校経営方針を決める時に、達成の数値を決めました。数値を設定したのは11項目ありましたが、その中で目標を達成できたのは6項目で、達成できなかったのは5項目でした。しかし達成できなかった項目の4項目は、90%を超えました。その中の、「保護者・地域・関係機関との連携」の数値が下がったのは残念なことでした。
- ・「個別の指導計画」に保護者の意見を取り入れているかの問いの肯定評価が100%であったことはとてもありがたく、様々な努力の成果が出たものと思われまます。
- ・多様な教育的ニーズに対応できる教育課程の編成については、長年低評価でしたが、今年度教育課程の変更により改善され、目標数値を達成できました。
- ・学部間の連携については、他の学部のことを見ること、知ることが必要だという改善策が出され、小学部では、お互いの授業を見る週間を設定し取り組めました。また学部間異動をした方がいいという意見も多数あり、次年度は大幅に行いたいと考えています。
- ・地域と連携し、地域に開かれた学校づくりの推進については、福祉の里まつりでは、周りの施設や地域の方々と協力し成功を収めていますが、昨年より低い数値になりました。学校全体の研究テーマにもなっていますので、来年度は研究の完成年度でもあることから期待したいと思えます。
- ・復興教育については、目標数値を大きく上回りました。
- ・ホームページに校長室からのブログを発信しています。各学年、学級では通信を発行していますが、皆さんに知らせたいと思うものをブログとして発信しています。
- ・働きやすい職場づくりの推進については、子ども達が育つ過程で、「正しいものを生徒に見せる」ことが大切ですので、教師が正しい姿勢を示す職場環境づくりをしたいと考えております。
- ・ノーパソコンデーやノー残業デーを設定しましたが、強制ではないためか浸透していません。
- ・交通無事故・無違反の日数を掲示しました。昨年より減少し、わずかながら成果がみられています。
- ・本日頂いたご助言や学校評価、職員反省を踏まえ、来年度の経営方針に反映していく予定です。

#### （2）学部状況について（各学部長）

##### ① 小学部（上山 学部長）

- ・新入生4名、転入生2名を含め、35名でスタートしました。
- ・個別の指導計画を保護者と相談して作成し、1年間の目標を立てて取り組み、どの子どもも着々と力をつけてきています。
- ・学部の行事としては、9月半ばに、前沢小学校との交流を行いました。(前小2年、本校2、3年)今年も、新しくなった前沢小学校の校舎で、心通う楽しい交流ができました。
- ・地域の読み聞かせボランティアさんの方々に来て頂き、子ども達に素敵な声で、絵本を読んで頂きました。

## ② 中学部 (佐藤 学部主事)

- ・本年度47名でスタートしました。欠席も少なく元気に生活しています。
- ・先週、高等部の入試があり、3年生20名が受検し、今週末の合格発表を待っているところです。
- ・現在1年から3年生まで13日のPTAバザーでの販売に向けて作業に取り組んでいます。
- ・10月下旬に前沢産業まつりに参加させて頂き、作業で作った製品を販売させて頂いたり、お祭りも楽しませて頂きました。
- ・中学部としての課題を現在、反省しています。それを受けて来年度の計画を立てていこうと準備しています。

## ③ 高等部 (岩崎 学部主事)

- ・本年度は生徒数81名でスタートしました。
- ・各地域、学校から多くの生徒が入学してきていることで障がいも多様化しており、この時期特有の事案が、数回発生していました。生徒指導部を中心に指導していますが、なかなか難しいところがある。
- ・良かったことは、校内実習で、一つの作業班が校外に出て、地域のために頑張ろうという気持ちから、通りの花壇の整備を実施できました。

## (3) 児童生徒について

### ア 在籍状況及び転入出状況 (柏崎 教務主任)

- ・小学部は、昨年より4名減、中学部は5名減、高等部は2名増で、合計昨年度より7名減となっています。
- ・今年も転入学、転出生なく、4月1日付で確定した在籍数163名は、今の段階まで変更なしとなっています。
- ・学園措置児が増加しています。

### イ 生徒指導状況 (千葉 生徒指導主事)

- ・交通事故 1件
- ・問題行動 6件 (性的問題行動3件、迷惑行為2件、暴力行為1件)  
どれも繰り返しの指導が必要と思われる、担当者を中心に学校全体として共通理解のもとで指導していかなければならないと感じています。
- ・避難訓練について、第3回の訓練では、たばしね学園・白梅の園・地域の方々と一緒に訓練ができ、良かったと思います。今後も継続したいと考えています。
- ・生徒会活動は、気仙光陵支援学校、前沢高校と交流を持ち、今年度も、気仙光陵支援学校を訪問し

て被災地を見学するなど、生徒たちにとって貴重な経験をさせることができました。

- ・加盟している高文連の高文祭開会式へ参加しました。今年は盛岡で行われ、プラカード保持の係を1名の生徒が務めました。
- ・奥州市合同美術展に12作品出品しました。

## □質問・意見

A氏：27年度から歩道工事が始まる。9月ごろから。十分気をつけてもらいたい。

学校を出たところに信号の設置を要望しているが、歩行者が少ないということで無理と言われている。しかし懲りずに、毎年要望していくことが大事だと思う。一回やめるともういいんだと思われてしまうので、継続して要望していきたい。

ウ ヒヤリハット・アクシデント記録、定期健康診断結果、保健室利用状況、日本スポーツ振興センター災害給付状況（小原 保健主事）

- ・職員の意識変革によって大事故を防ぐということで、昨年度からヒヤリハット・アクシデント記録をつけています。ヒヤリハットは軽微なもの、アクシデントは保護者への説明が必要だったり病院受診が必要なものとしています。
- ・記録数は、昨年より多くなっていますが、それは、ヒヤリハット・アクシデント記録を書くという意識が定着してきたことでもあると判断しています。今後とも再発防止に向けて生徒の安全を図っていくために継続していきたいと思います。
- ・健康診断結果から、肥満についての課題があげられます。成長とともに肥満傾向が目立ってきますし、改善も難しくなります。このことは岩手県全体の問題でもあるため、今後本校でも取り組んでいかなければならない課題と捉えています。
- ・歯科健診について、給食後歯磨き指導や仕上げ磨き等を行って、口内の衛生を保つことに力を入れています。障がいによって歯列や咬合、歯肉に影響が出てくるお子さんもいます。
- ・本年度の保健室の利用状況は、各学部の行事日における利用が増加しています。なかでも外科的な目的の利用の割合が多い傾向にあります。
- ・日本スポーツ振興センター災害給付利用状況は、現時点で4件となっています。適切な処理に努めています。

## □質問・意見

B氏：ヒヤリハット・アクシデント記録は、父兄には出さないのか？これを見ると親も勉強になることもある。

（保健主事・副校長）出していませんが、必要に応じて家庭へは連絡しています。記録の主たる目的は、再発防止への職員の意識啓発が、ねらいです。

A氏：これを見ると教室で起きていることが多いが、授業中の先生は何人か？

（高等部主事・副校長）授業によっても異なりますが、1学級生徒8人に対して2～3人です。8人といっても障がい種や程度が様々ですので、個別に指導する場合があります。教員がついているときでも、生徒が大人数になればヒヤリハット・アクシデントが起きやすい環境にな

ってきますので気を配っています。

(4) 支援センター部活動状況 (梅野 支援センター部長)

- ・1月時点の状況で、支援の件数は、小学校が昨年よりやや少ない結果でした。トータル数は173件となりました。
- ・主な支援内容は、訪問支援や継続支援が割合的には多くなりました。
- ・研修会への講師の依頼は、担当者としても勉強になり、感謝しています。
- ・訪問支援は、電話での相談も承っていますが、実際に子どもを観察して支援していくことが大切です。担当の先生方との情報交換を行いながら、支援方法を見出していければと考えて行っています。
- ・心理検査も行いながら、具体的な手立てとして考えられることも併せてお伝えしている。
- ・校内支援としては、教員だけで問題を解決できることは少なく、短期入所や放課後デイの方々との情報交換から、より良い方向に支援できればと考え実施しています。
- ・居住地校交流については、21名の児童生徒が希望し実施しました。楽しく取り組む姿がみられました。
- ・学校へ行こう週間では、230名の来校者がありました。
- ・関係機関との連携は、福祉関係だけでなくとどまらず、病院との連携も必要になってきており、検討していきたいと考えております。

(5) 地域交流実施状況 (高橋 総務部長)

- ・今年も11の地区で年1～2回程度の活動を行い、本年度の活動は、ほぼ終了しました。
- ・来年度からは、活動のまとめや反省を2月に実施することとし、活動期間を1月末までにしたいと考えています。
- ・人数が減少している地区もあり、継続していく体制を検討していく予定です。

□質問・意見

A氏：県外の児童生徒が3名いるが、その子たちはどの地区で活動しているのか？

(総務部長・副校長) たばしね学園で生活している児童生徒なので、前沢地区で活動しています。

(6) 平成25年度卒業生の様子、平成26年度卒業見込み生徒の進路予定先 (上山 進路指導主事)

- ・卒業生の様子は、①福祉サービス、②一般就労、③就職訓練の3つについて説明します。
  - ① 福祉サービス事業所・・・入所一待機の人へ調整の支援を行いました。  
通所一進路コーディネーターやアフター担当者が様子を確認しました。
  - ② 一般就労・・・体調不良や仕事に対する姿勢の部分での気持ちの低下に関する支援を行いました。賃金の未払いのケースもありました。
  - ③ 就職訓練・・・一般就労できたが、家族の支援が受けられないために就労を断念した卒業生みられ、現在も引き続きアフターケアしています。
- ・平成26年度卒業見込み生徒の進路予定先については、小学部4名が本校中学部への進学予定で

す。

中学部卒業予定者うち2名は、花巻清風と一関清明の各特別支援学校高等部への進学希望があり、そのほか18名は、本校高等部への進学希望となっています。

- ・本年度高等部卒業見込み生徒については、福祉的就労の通所型に17名、福祉的就労の入所型に3名、一般就労に4名が内定や内々定をいただいている。
- ・卒業式が終わってからも、進路支援が続きます。移行支援会議とって、各進路先で関係機関の全員が集まって、支援の方向を確立して支援の分担をするという会議が今後予定されています。

#### □質問・意見

B氏：給料未払いは、働きが悪いからか、不景気だからかなのか。

(進路支援部長) それについての詳細は確認ができていません。職業安定所に入ってもらいましたが、安定所からは未払いに関して注意することはできるが、それ以上のことになると労働基準局が入り、処罰になってしまうようです。詳しい経緯や理由を回答してもらえませんでした。

#### (7) 実践研究部の活動状況 (鎌田 実践研究部担当)

- ・今年度の研究のまとめとして、実践交流会を開催しました。研究は3年間継続した内容となっています。PTAの方にも参加していただいでご意見を頂いた。
- ・キャリア教育の啓発のために、クリアファイルを作成し、近隣の学校や関係機関に配りました。

#### □質問・意見

A氏：クリアファイルは、表面に字が書いてあると、使いづらい。

(副校長) 工夫していきたいと思いますが、使用目的より、アピール目的のものであることをご理解いただきたいと思います。

#### (8) 平成26年度学校評価について (牧 副校長)

- ・昨年度よりも保護者の回答が少なかったことが残念でした。(63%の回答率)
- ・評価ポイントが下降したのが5項目で、学校と家庭との相互連携に関わる内容のものでした。これまで家庭と連絡をとりながら連携を密にしてきたつもりでしたが、まだまだ保護者の中に浸透していないことを感じました。次年度は、連絡の仕方の一層工夫が必要だと感じました。
- ・満足度が低かった項目は、進路に関しての内容のものでした。学校でも進路に関する説明会や見学会の機会を設け、家庭での話題提供に努めています。さらなる意識の高揚に努めていきたいと思ひます。
- ・関係機関からもご意見を頂きました。情報交換をもっと密に、お知らせは早めに、というご意見があり、改善に努めて参ります。
- ・児童生徒への調査に関しては、わからないとの回答も多く、もっとわかりやすい表現に改善したいと考えています。

#### □質問・意見

B氏：保護者の回収率が低いので、懇親会の時に書いてもらってもいいのでは？

(校長) 懇親会の出席率はもっと低いのでどうか。

(副校長) 結果を拝見すると、しっかり考えて回答していただいたものばかりだと分析できます。回収率は低かったが質の高い回答であったことが伺われます。回答期間を検討して回収率向上につなげたいと考えています。

C氏：「学校の終わる時間が早すぎる」という意見に対しては、どう対応するのか？

(副校長) 教務を中心に、教育課程や生活時程を変更して取り組んでいきたいと考えています。

(教務主任) 小中学部は、今まで他の学校と比べても短めの生活時程でしたが、来年度4月から、5分ずつ時程を長くするようにしました。そのため下校時間も15分遅くなる予定です。

(校長) 学校にいる時間帯が長ければ長いほど子ども達の教育活動ができるとはわかってはいますが、そのための体力が備わっていません。小学部1年生などは、給食を食べながら眠ってしまう子もいるくらいですから、難しいところもあります。一概に普通学校と比較できないところもあります。

#### 4 協議・助言

C氏：生徒の多様化がアクシデントにもつながっているのかとも思います。多様化した生徒が入っている中で先生方がご苦労されながらやっておられるのがよくわかりました。色々な生徒がいるかと思いますが、一人一人に手を貸すことで、生徒は伸びます。根気強くやっていてもらいたいと思います。先生方、頑張ってください。

学部間の交流や職員間のコミュニケーション、他の関係機関との情報交換をやっていくことが必要ではないかと思います。情報の共有が一番大事ではないかと思います。

学部異動に関しては、先生方の理解と協力が必要だと思いますので、校長先生と一緒に進めながらより良い学校づくりをしていってほしいと思います。

B氏：福祉施設での喫煙の光景をよく見かける。聞けば、隅っこで吸って火事をおこされるよりいいと関係者から話される。そういう問題ではないと思うので、学校からも施設に出向き、やんわり話してもらえれば。併せて、挨拶しない人も多く、お願いしたい。

卒業生のアフターフォローと進路支援の説明は、わかりやすく大変感心しました。

A氏：普通の学校の先生方と比べても、よくやってるなあと思いました。色々な障がいの子も達を見ながら頑張っているように思います。ご苦労様です。

D氏：以前に、障がい者を一人面倒見たことがありますが、その中で気になったのが、何か問題のあった時に先生に電話して、「こういう時はどうしたらいいですか」と聞いていました。また、子ども達が楽しみにしているのが、年1回の施設の集まりに参加する事でした。ここでは、卒業した子ども達の集まりがあるのかどうか、できるのであれば、楽しみにする子もいるのではないかと思います。卒業した子ども達のことも考えて頂きたい。

E氏：全校児童生徒163名のうち37名がたばしね学園から通っている子どもです。学園でも高等部の子が多いのは、学校の割合と同じで、学園は学校の縮図のようです。措置の子とって、家庭的に恵まれない方もいるし、県外からでは、仙台から4名入所している。他県のお子さんもお預かりしながら、自立を目指して支援しています。設置基準では、子ども4～3人に対して職員1人の配置となっています。それからいくと10名の職員で対応することになるが、それでは無理があります。現在30名くらいで見えています。国の基準の厳しさがあります。そこで質問ですが、県下の支援学校でクラブ活動をやっているところがありますか？  
(校長) 盛岡峰南高等支援学校です。

E氏：学園には、体力を持て余している子もいます。そういう取り組みをしている学校があればと思ひ質問しました。

B氏：普段学校に来て、職員室から誰もこちらを見てもらえない。ガラスをノックして初めて気づいてもらえるが、それでは危ないのでは？  
(校長) 事務室側から入ると、訪問者として名前を記入するが、児童生徒の昇降口にはありません。何らかの工夫をしたいと思ひます。

## 5 謝辞 (校長)

貴重なご意見ありがとうございました。子ども達の成長のためには、私達が気持ちよく働くことが大事ですので、働きやすい職場づくりを目指したいと思ひます。

卒業後の支援として、同窓会があります。関係スタッフの連携、子ども達の多様性に応じた指導を行っていきたいと考えています。

危機管理については、普段不審者対策などを行っているが、実際の場面でご指摘を受けると、その都度、不備があると感じます。身につまされるご意見を改善していきたいと思ひます。

今後ともよろしくお願ひ致します。

## 6 閉会のことば (日當副校長)